



## 7-2 騒音

### 7-2-3 車両の走行による騒音の影響

#### 予測結果

道路交通騒音 (L<sub>eq</sub>) の予測結果 (昼間)

予測項目	騒音レベル増減量の計算		単位: dB	
	現況交通騒音	増減量	現況予測結果	予測結果
	(A)	(B)	(C)=(A+B)	(D)
昼間騒音レベル	64.5	65.0	0.5	66

#### 評価

予測項目	予測値	評価	対策	評価	対策	評価	対策
昼間騒音レベル	66	○	対策	66	○	対策	66



37

## 7-2 騒音

### 7-2-3 車両の走行による騒音の影響

#### 環境保全措置

項目	環境保全措置の内容	環境保全措置の効果	他の環境への影響
低公害車の導入	・廃棄物運搬車両の更新にあたっては、発生騒音レベルが小さい低公害車の導入を促進する。	発生騒音レベルの低減が見込まれる。	他の環境への影響はない。
作業方法の配慮	・工事関連車両及び廃棄物運搬車両の運転者には、制限速度を遵守させ、無駄な空ふかしやアイドリングを行わないよう指図を徹底する。 ・工事関連車両及び廃棄物運搬車両は、十分に整備・点検を行うことにより、常に良好な状態で使用し、環境への負荷を軽減する。	発生騒音レベルの低減が見込まれる。	大気質、振動への影響の低減も見込まれる。
車両の運行管理	・工事関連車両及び廃棄物運搬車両の主要走行ルートは、沿道に人家等の密集地が少ない、対象事業実施区域南側の工業地域内を通行するルートとする。 ・車両が集中することが無いように、適切に運行管理を行う。	ピーク時における騒音の低減が見込まれる。	

38

## 7-3 振動

### 7-3-1 現況調査結果

道路交通振動  
地盤卓越振動数  
交通量  
走行速度

平日の昼間、夜間、土曜日の昼間、夜間ともに全て25dB未満であり、第2種区域の要請限度を下回った。

道路交通振動の調査結果

調査日	調査地点	時間区分	調査結果 (L <sub>eq</sub> )	要請限度 (第2種区域)
平日	No.1	昼間	<25	25
		夜間	<25	20
土曜日	No.1	昼間	<25	25
		夜間	<25	20

注1) 時間区分: 昼間: 8:00~19:00、夜間: 19:00~8:00 (変動制時区あり)  
注2) 「25」は、変動制時区下昼間の要請限度を示す。  
注3) 要請限度: 「要請限度」は大きく変動制時区下の要請限度を示す。

39



## 7-3 振動

### 7-3-1 現況調査結果

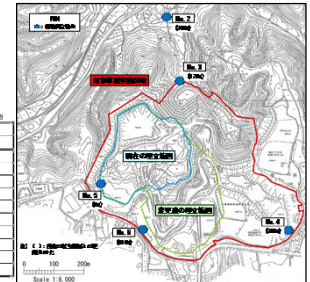
環境振動  
平日の昼間が25dB未満~30dB、夜間が25dB未満~25dB、土曜日は昼間、夜間とも25dB未満~25dBであった。

環境振動の調査結果

調査日	調査地点	調査結果 (L <sub>eq</sub> )	
		昼間	夜間
平日	No.2 東京事務所	<25	<25
	No.3 北野新田事務所	<25	<25
	No.4 大野新田事務所	30	25
	No.5 西谷地蔵事務所	<25	<25
	No.6 西谷地蔵事務所	25	25
	No.7 西谷地蔵事務所	<25	<25
土曜日	No.2 東京事務所	<25	<25
	No.3 北野新田事務所	<25	<25
	No.4 大野新田事務所	25	25
	No.6 西谷地蔵事務所	<25	<25

注1) 時間区分: 昼間: 8:00~19:00、夜間: 19:00~8:00 (変動制時区あり)  
注2) 「25」は、変動制時区下昼間の要請限度を示す。

40

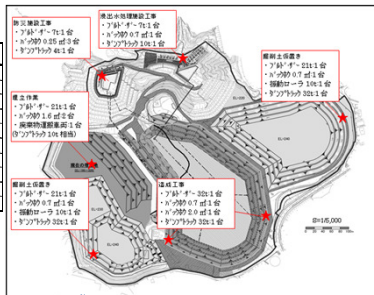


## 7-3 振動

### 7-3-2 建設機械の稼働による振動の影響

#### 予測条件

機種	総重量	振動レベル (dB)	高振動 (%)
バックホウ	6,200	52	7
バックホウ	6,200	58	7
バックホウ	1,200	61	7
バックホウ	2,800	61	7
ブルドーザー	21	63	7
ブルドーザー	22	63	7
コンクリートポンプ車	42	56	5
コンクリートポンプ車	321	69	5
ダンプトラック	161	71	7



41

## 7-3 振動

### 7-3-2 建設機械の稼働による振動の影響

#### 予測結果

建設機械の稼働による振動の予測結果 (昼間)

予測地点	予測結果	予測結果
北野新田事務所	No. 11	41a
西谷地蔵事務所	No. 12	56a
西谷地蔵事務所	No. 13	56a

予測地点	予測結果	予測結果
北野新田事務所	No. 1	29b
西谷地蔵事務所	No. 2	37b

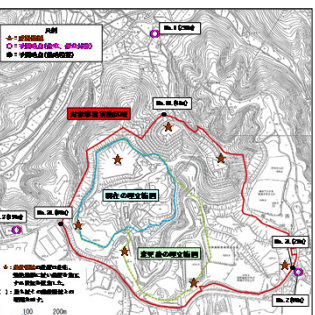
予測地点	予測結果	予測結果
北野新田事務所	No. 14	50.1
西谷地蔵事務所	No. 15	50.9
西谷地蔵事務所	No. 16	55.8

予測地点	予測結果	予測結果
北野新田事務所	No. 1	29b
西谷地蔵事務所	No. 2	37b

予測地点	予測結果	予測結果
北野新田事務所	No. 1	29b
西谷地蔵事務所	No. 2	37b

予測地点	予測結果	予測結果
北野新田事務所	No. 1	29b
西谷地蔵事務所	No. 2	37b

予測地点	予測結果	予測結果
北野新田事務所	No. 1	29b
西谷地蔵事務所	No. 2	37b



### 7-3 振動

#### 7-3-2 建設機械の稼働による振動の影響

##### 環境保全措置

項目	環境保全措置の内容	環境保全措置の効果	他の環境への影響
作業方法の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械のアイドリングストップを励行するとともに、十分な点検、整備を行い、性能の維持に努める。</li> <li>建設機械の稼働時間帯は昼間の8時～17時とし、夜間の環境への負荷を軽減する。</li> </ul>	発生振動レベルの低減が見込まれる。	大気質、騒音への影響の低減も見込まれる。
機械の運行管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事工程の管理を行い、建設機械が過密に稼働することのないよう努める。</li> </ul>	発生振動レベルの最大値（ピーク）の低減が見込まれる。	

43

### 7-3 振動

#### 7-3-3 車両の走行による振動の影響

##### 予測条件

工事関連車両が多くなるのは、浸出水処理施設のコンクリート打設を行う時期であり、最大でコンクリートミキサー車15台、その他車両5台を計画

時間帯	周辺の施設関連交通量			母体の施設関連交通量					
	廃棄物運搬車両			工事関連車両					
	東行き	西行き	合計	東行き	西行き	合計			
7:00	2	2	4	4	4	8	0	0	0
8:00	2	0	2	4	0	4	10	0	10
9:00	3	4	7	5	7	12	10	10	20
10:00	4	3	9	7	9	16	10	10	20
11:00	3	2	5	5	4	9	10	10	20
12:00	3	0	3	3	0	3	10	10	20
13:00	1	0	1	2	0	2	10	10	20
14:00	2	4	6	4	7	11	10	10	20
15:00	8	3	11	14	5	19	10	10	20
16:00	5	12	17	9	21	30	0	10	10
17:00	0	1	1	0	2	2	0	0	0
合計	33	33	66	59	59	118	80	80	160

44

### 7-3 振動

#### 7-3-3 車両の走行による振動の影響

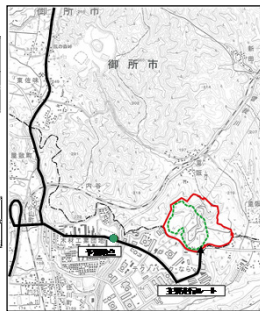
##### 予測結果

道路交通騒音(L<sub>A</sub>)の予測結果(昼間の時間帯の平均値)

予測項目	騒音レベル増加量の予測				予測結果
	現状交通量	将来交通量	増加量	現況騒音レベル	
騒音レベル	(A)	(B)	(C=D-E)	(D)	(E)
騒音レベル	37.4	38.3	0.9	25未満	25.9

##### 評価

予測項目	予測結果	規制基準	規制基準との差
道路交通騒音(L <sub>A</sub> )	25.9	25	0.9



45

### 7-3 振動

#### 7-3-3 車両の走行による振動の影響

##### 環境保全措置

項目	環境保全措置の内容	環境保全措置の効果	他の環境への影響
作業方法の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事関連車両及び廃棄物運搬車両の運転者には、制限速度を遵守させ、無駄な空ふかしやアイドリングを行わないよう指導を徹底する。</li> </ul>	発生振動レベルの低減が見込まれる。	大気質、騒音への影響の低減も見込まれる。
車両の運行管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事関連車両及び廃棄物運搬車両の主要走行ルートは、沿道に人家等の立地が少ない、対象事業実施区域南側の工業地域内を通行するルートとする。</li> <li>車両が集中することが無いように、適切に運行管理を行う。</li> </ul>	ピーク時における振動の低減が見込まれる。	

46

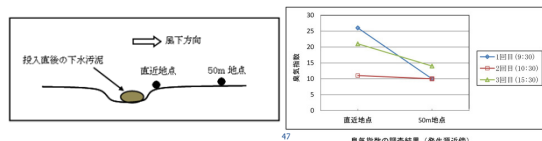
### 7-4 悪臭

#### 7-4-1 現況調査結果

##### 特定悪臭物質 臭気指数(臭気濃度)

春季、夏季、秋季、冬季における敷地境界及び周辺6地点の特定悪臭物質濃度は、全ての項目が順応地域の規制基準を下回る値であった。また、臭気指数は10未満であった。

悪臭が最も発生しやすい下水汚泥を投入した直後の風下側直近地点及び50m離れた地点の2地点の臭気指数は、直近地点で11~26、50m離れた地点で10未満~14であった。



47

### 7-4 悪臭

#### 7-4-2 廃棄物の埋立てによる影響

##### 予測結果

現在の処分場における埋立対象物は拡張後も同様である。  
 悪臭の現地調査結果は、特定悪臭物質(22物質)及び臭気指数(臭気濃度)は全て規制基準を下回っている。  
 拡張後に受け入れる廃棄物の品目は現在の処分場と同じであることから、特定悪臭物質(22物質)及び臭気指数(臭気濃度)は現地調査結果と同程度になり、規制基準を満足し、臭気指数(臭気濃度)は10未満になると予測される。

悪臭が最も発生しやすい下水汚泥を投入した直後の風下側の臭気指数は、直近地点で11~26、50m離れた地点で10未満~14であり、距離によって減衰する傾向が認められる。

拡張後の埋立処分区域は、現在の埋立処分区域の南東側になり、最も近接する東側集落までの距離は約250mであることから、下水汚泥の投入時においても周辺集落における臭気指数(臭気濃度)は10未満になると予測される。

悪臭の拡散については、風向、風速等の気象条件が関連しており、不確実性を伴うことから、後述のとおり環境保全措置を実施する。

##### 評価

特定悪臭物質(22物質)及び臭気指数(臭気濃度)は現地調査結果と同程度になり、規制基準を満足すると考えられることから、基準又は目標との整合が図られているものと評価する。

48

## 7-4 悪臭

### 7-4-2 廃棄物の埋立による影響

#### 環境保全措置

項目	環境保全措置の内容	環境保全措置の効果	他の環境への影響
ガス抜き管の敷設	・ガス抜き管を兼用する浸出水集排水管を敷設することで地中を好気環境に保ち、悪臭の発生を抑制する。	悪臭の発生を抑制する効果が見込まれる。	
覆土の実施	・廃棄物の埋立処分の際に併せて覆土を行い、悪臭の発生を低減する。 ・悪臭が発生しやすい夏場に下水汚泥を搬入する際は、風向等の気象状況に留意し、周辺地域に悪臭が拡散すると想定される場合は、即日覆土を行う。	悪臭発生量の低減が見込まれる。	他の環境への影響はない。

49

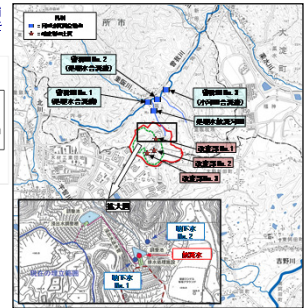
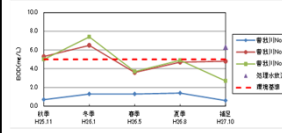
## 7-5 水質

### 7-5-1 現況調査結果

#### 河川の水質

◇生物化学的酸素要求量(BOD)

曾我川No.2の秋季及び冬季、曾我川No.3の冬季、補足調査の処理水放流河川が、環境基準(5mg/L以下)を超過した。



50

## 7-5 水質

### 7-5-1 現況調査結果

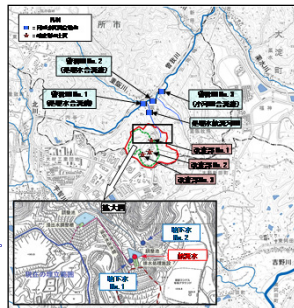
#### 河川の水質

◇浮遊物質(SS)と溶存酸素量(DO)  
全地点で環境基準(SS:50mg/L以下、DO:5mg/L以上)を満足した。

◇健康項目  
1,4-ジオキサンについては、補足調査の処理水放流河川が環境基準(0.05mg/L以下)を超過した。他の項目については、全地点で環境基準を満足した。

◇ダイオキシン類  
全地点で環境基準(1pg-TEQ/L)を満足した。

◇その他項目(排水基準項目)  
溶解性鉄が補足調査時に全地点で検出され、溶解性マンガンが処理水合流後の曾我川No.2と曾我川No.3及び処理水放流河川で検出された。溶解性鉄、溶解性マンガン以外の項目は全地点で定値下限値未満であった。



51

## 7-5 水質

### 7-5-1 現況調査結果

#### 水処理施設の放流水

既存の水処理施設放流水は、毎月1回の水質調査を実施している。

◇水系イオン濃度(pH)

排水基準(6.8~8.6)を満足している。

◇生物化学的酸素要求量(BOD)

年平均値は、排水基準(60mg/L以下)を満足している。

◇1,4-ジオキサン

年平均値は、排水基準(0.5mg/L以下)を満足している。

◇その他の項目

全て排水基準を満足している。

#### 周囲の地下水

◇電気伝導率

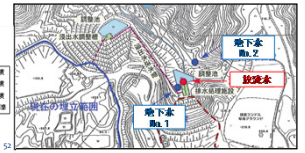
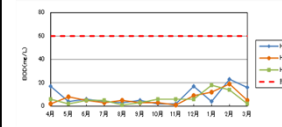
年平均値は、No.2井戸の方がNo.1井戸よりやや高い値であった。

◇塩化物イオン

年平均値は、No.2井戸の方がNo.1井戸よりやや高い値であった。

◇その他の項目

両井戸ともに周縁地下水の基準を満足している。



52

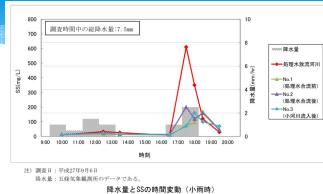
## 7-5 水質

### 7-5-1 現況調査結果

#### 降雨時の濁水

◇小雨時の調査

17時から18時にかけての降雨(2.5mm/h)により、処理水放流河川が高い値となり、SSのピークは610mg/Lであった。これは河床に堆積した泥等が一時的に流出したものと考えられる。調査開始から終了までの降水量は7.5mm、時間最大雨量は2.5mmであった。

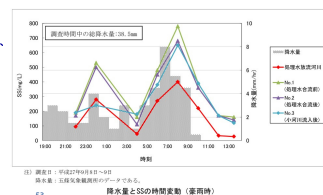


(注) 調査日：平成27年9月14日  
降水量：上述気象観測所のデータである。

降水量とSSの時間変動(小雨時)

◇豪雨時の調査

7時頃の降雨(8mm/h)により各地点ともピークとなり、No.1(処理水合流前)が最も高く80mg/L、処理水放流河川が最も低く400mg/Lであった。調査開始から終了までの降水量は38.5mm、時間最大雨量は8mmであった。



(注) 調査日：平成27年9月14日  
降水量：上述気象観測所のデータである。

降水量とSSの時間変動(豪雨時)

53

## 7-5 水質

### 7-5-2 降雨時における水の濁りによる影響

#### 予測条件

#### 調整池の流域面積

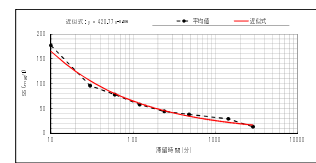
種類	面積
流域全体面積	239,700 m <sup>2</sup>
現在の埋立地 (深出水処理施設に流入)	68,978 m <sup>2</sup>
調整池流域面積	170,722 m <sup>2</sup>

#### 雨水流出係数

種類	雨水流出係数
開発区域(裸地)	0.5
非開発区域(植栽有り)	0.3

#### 調整池の容量

項目	値
調整池容量	14,074 m <sup>3</sup>



沈降試験結果

54

7-5 水質

7-5-2 降雨時における水の濁りによる影響  
予測条件(降雨強度)

予測ケース		
ケース	設定値	備考
ケース1	3mm/h	降雨時に人間活動がみられる日常的な降雨
ケース2	30mm/h	各年の1時間最大降水量の代表値
ケース3	46.5mm/h	過去10年間の1時間最大降水量

観測年	降水量(mm)		各階級の日数						
	年	日最大	1時間最大	≧1mm	≧10mm	≧30mm	≧50mm	≧70mm	≧100mm
	2004	1,363	57	33	114	53	111	2	0
2006	1,370	68	資料不詳	134	47	9	0	0	0
2007	1,184	71	59	125	55	83	3	1	0
2008	1,204	78	44.6	121	47	8	2	1	0
2009	1,502	92	32.5	113	47	12	4	3	0
2010	1,530	82	28.5	113	58	11	4	1	0
2011	1,620	76.5	31	117	46	15	7	2	0
2012	1,432	97	35	128	41	15	3	2	0
2013	1,478	128	39	108	39	12	6	3	2
2014	1,106	118.5	20	113	34	8	1	1	1

出典：『気象統計情報』(気象庁ホームページ)

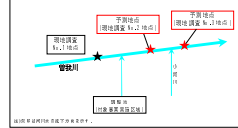
55

7-5 水質

7-5-2 降雨時における水の濁りによる影響  
予測結果

項目	降雨強度	調整池出口		No.2現況水質		No.3予測結果	
		濁水発生量 (t)	SS流出濃度 (mg/L)	現況濁水 (t)	SS (mg/L)	合成後濁水 (t)	合成後濃度 (mg/L)
ケース1	3mm/h	256	16	972	200	1,228	102
ケース2	30mm/h	2,561	40	4,536	600	7,097	449
ケース3	46.5mm/h	3,969	48	4,536	600	8,565	383

注) 現況水質は、ケース112小南時調査結果、ケース2,313家前時調査結果の平均濃度とした。



評価

降雨時における濁水に係る基準は定められていないことから、目標は現況の濃度(現地調査結果におけるSS)とした。洪水調整池からの濁水が流入する曾我川におけるSS予測値は、現況を下回る濃度となっている。このため、基準又は目標との整合は図られているものと評価する。

56

7-5 水質

7-5-2 降雨時における水の濁りによる影響  
環境保全措置

項目	環境保全措置の内容	環境保全措置の効果	他の環境への影響
洪水調整池の設置及び維持管理	・新規埋立地の掘削工事に先立ち、洪水調整池の工事を行い、濁水流出を防止する。 ・洪水調整池は、定期的に堆積物の浚渫を実施し、有効滞留容量を確保する。	造成工事による濁水を滞留させ、土粒子を沈降除去できる。	他の環境への影響はない。

57

7-5 水質

7-5-3 水処理施設の放流水による影響  
予測条件

項目	単位	計画処理水質及び水量		【参考】 現施設の放流水質 (平成24~26年度の年平均値)
		計画処理水質 (濁水処理施設放流水)	現況水質	
処理水量	m <sup>3</sup> /日	450	—	—
BOD	mg/L	10	10	6.2~8.6
SS	mg/L	10	10	7.0~7.6
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	1	1	0.00061~0.006

予測地点(曾我川)の現況水質及び流量

項目	単位	現況水質(曾我川)	
		No.2	No.3
流量	m <sup>3</sup> /日	2,419 (0.028m <sup>3</sup> /s)	2,765 (0.032m <sup>3</sup> /s)
BOD	mg/L	5.0	5.3
SS	mg/L	4.0	3.0
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.44	0.45

58

7-5 水質

7-5-3 水処理施設の放流水による影響  
予測結果

項目	単位	水質の予測結果				
		計画	現況水質(曾我川)	予測結果(曾我川)		
流量	m <sup>3</sup> /日	450	2,419	2,765	2,909	3,215
BOD	mg/L	10	5.0	5.3	5.8	6.0
SS	mg/L	10	4.0	3.0	4.9	4.0
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	1	0.44	0.45	0.53	0.53

評価

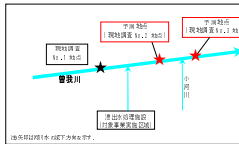
処理水の水質					
項目	単位	計画処理水質	基準又は目標	基準又は目標との整合	基準又は目標との整合
BOD	mg/L	10	60	○	○
SS	mg/L	10	60	○	○
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	1	10	○	○

河川における水質					
項目	単位	現況水質(観測点)	予測結果(観測点)	基準又は目標	基準又は目標との整合
BOD	mg/L	5.8	5.3	5.8	○
SS	mg/L	4.9	3.0	4.9	○
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.44	0.45	0.53	○

出典：『気象統計情報』(気象庁ホームページ)

59



7-5 水質

7-5-3 水処理施設の放流水による影響  
環境保全措置

項目	環境保全措置の内容	環境保全措置の効果	他の環境への影響
排水処理対策	・埋立区域内外からの流入水は、埋立地内に流入して浸出水量を増大させないように速やかに洪水調整池に排水する計画とする。 ・処理水放流水質は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく基準法令による排水基準を満足するとともに、放流水の状況や環境保全に留意して最新の技術により、高度な水準の処理を行う。 ・放流水質が、計画処理水質値を上回る場合は、これを下げるための対策を講じる。	処理水量及び水質の低減が見込まれる。	他の環境への影響はない。
水質の監視	・放流水及び河川水は定期的に水質調査を実施する。 ・水質調査の結果は、ホームページで公表する。	水質を監視することによって、適切に設備を維持管理することができる。	

60